

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103792		
法人名	特定非営利活動法人 福祉サポートセンター さわか岐阜みのじ		
事業所名	グループホームガーデン柳津北館 1F 多喜恵		
所在地	岐阜県岐阜市柳津町本郷2丁目13番地1		
自己評価作成日	令和 3年 3月 1日	評価結果市町村受理日	令和 3年 4月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190103792-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190103792-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和 3年 3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まもなく開設満4年になるホームです。隣接の18年間実績あるガーデン柳津のエビデンスを活用して、認知症のご利用者様が、その人らしく、穏やかに過ごせるように職員一同頑張っています。入居にあたって、制限や選択をしておりますので、やや、重度の方や、医療依存度の高い方も入居されております。住環境として、施設らしさを排除しつつ、安全で、快適な心休まる立地、環境、設備を有しています。医療と、薬業、介護、ご家族とを、THPによる密接な連携を行い、日常の健康管理から、看取りまでの対応を可能としています。体力、元気の源である食べることを大切に、楽しみある豊かな食生活を利用者と一緒になって構築しています。常勤職員中心で、手厚い配置をして、且つパート職員も上乗せ配置しきめ細かく個別対応ができるように配慮している。今年度も看取り実施。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

《今年度評価はコロナ禍により電話ヒアリングに代えて実施した》  
ホームは、利用者が穏やかに落ち着いて生活できるように様々な取り組みを行っている。利用者の重度化に備え、機械浴を設置し、全員が浴槽にはいれる支援を提供している。THPプラスが機能しており、文字だけでなく、画像データも活用でき、利用者の健康状態の把握・管理を可能にしている。情報共有のための取り組みとして、Lineの使用がある。管理者と職員・家族のLineグループがあり、写真や動画を配信し、リアルタイムでの情報共有を可能としている。Lineでのリモート面会も実施しており、家族からは「安心できた」などの声が上がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	厚労省の掲げるグループホームの指針の一語一語をよくかみしめ掘り下げ、それを実践している。	厚労省の掲げる、グループホームの指針をもとに、職員は、日々、利用者への支援に努めている。指針は職員の入職時に説明しており、会議時などでも理解を促す取り組みがある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物等で地域に出かけ交流している。	自治会への加入はないが、地域のコミュニティーセンターの鍵をホームで預かっており、地域住民が鍵を借りて訪れている。コロナ禍以前は、地域行事への参加があったが、今年は、行事自体が開催されておらず、ホームのイベントも中止となった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいサロンなどで、介護教室の講師を行っている。また、地域ケア会議で認知症の対応方法の講師も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人の事業計画や、経営状況、日々のサービス状況、ホームの方針、医療連携などを話合い理解していただくと共に、意見も頂いている。	コロナ禍で、従来通りの開催は出来ていない。運営推進会議の開催については、行政に相談しており、現在は、ホームの状況の報告のみとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	県内事業所の協議会役員でもあることから、市の委員等も務めており日々交流をもっている。当該事業所は、岐阜市で10年ぶりの新設事業所として5事業者の中から開設助成選定されたことから連携できている。	市の主催の認知症フォーラムの講師を受託したが、コロナ禍により、開催がされなかった。必要に応じて、市の担当者が訪問しており、メールでの情報提供もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内玄関のみ簡易な施錠はあるが、現実的には入居者は皆さん開けられるので、事実上日中は無施錠。自由に動かれており、薬物、言葉のロック含め拘束はしていない。	毎月開催する全体会議で、身体拘束について指導している。地域包括支援センターから、講師を招き、研修を行っている。薬剤やスピーチロックについても、職員の理解を促す取り組みがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろんのこと、言葉や態度による虐待もないように、日々注意を払っている。職員会議で、勉強会もしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当該ユニットにも、成年後見制度利用者がいらっしやり、隣の別館にも日常生活実支援制度利用者がいらっしやり、日々の中で学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にホームの方針、できること、できないことを明確にしている。じっくりと時間をかけて話し合いを持っている。また、運営推進会議、家族会議で都度話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほぼ週に1度は来訪されており、その席で話会いをもつようにしている。遠方の方には line で家族に写真を送るなどして、ご意見をいただいている。意見に対しては、職員会議で議論する。	コロナ禍の中、家族の訪問に代え、Line を使用したりモート面会を行っている。写真や動画を使用し、家族に利用者の様子を伝え、意見・要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が管理者兼任で、現場の介護に入っており常に話せる環境にある。また、職員会議等でも話合っているが、規模、人数が増えた分まだまだ、足りていない。今後改善したい。	管理者は職員と日常的に、話を聞く機会を設けている。業務上でのLineグループがあり、リアルタイムで情報を共有できる環境を構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員配置数や、勤務時間、希望休の取得など環境整備している。順次資格取得にもバックアップしている。現実には、あと少し法人が理想とする人員数に届いていない分、足りない部分がある。要改善。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護初任者研修1名、管理者研修2名、外部認知症研修会参加者10名など、随時、職員にあわせて選択して参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人で県グループホーム協議会の事務局を受け持ち、管理者が役員をしていることから行政、同業者との交流は多い。短時間パートを除いた職員には名刺を作成し個人交流もすすめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面談をご本人としている。また、ホームにも入居前に御本人に来ていただき雰囲気を感じてもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の状況をよく聴き、必ず複数のグループホームを見学していただき、当ホームを理解、納得されるまでじっくりと話し合い、ご家族との信頼関係を築くようにしている。(利用申し込み前に2時間程度必ず時間をとっている)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず、お話を伺い、グループホームなのか他のサービスが必要なかを一緒になって考え本当に必要なサービス提供になるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	運営規定にもあるように、有する能力に応じてできる限り自立した生活が送れるように支援している。また、選択することをできる限りしていただいている。グループホームというコミュニティで利用者間の相互互助という精神を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に来訪いただき、利用者のケアについて一緒に考え話し合い、ときには、一緒にケアに参加してもらっています。また、介護記録ノートはすべて開示し、来訪時に確認していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、まだ、なじみの場所に行くような支援はできていない。ご家族や、お友達の来訪は推奨しており、来訪多い。また、新たななじみの場所ができるよう外出支援している。	利用者の介護度の重度化が進んでおり、関係継続に向けた支援が難しくなっている。家族や友人などの訪問を推奨しており、来訪者は少なくなかった。現在は、コロナ禍の中、来訪は制限している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話を振ったりつなげたり、依頼したりして利用者同士のかかわりを持てるように支援している。また、必要に応じて、席替えをするなどして、利用者同士が相互互助の関係になれるように目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例は少ないですが、手続きや、情報提供、退去時の荷物搬送等、お手伝いしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1でゆっくりとお話を聴いたり、会話の中にそれとなく混ぜ込み希望や想いの把握につとめている。また、ご家族からも過去の生活史を聞き取り、あくまでも本人の視点に立ち職員で考えてケアにあたっている。また、ご家族にも、それを伝えて一緒に考えている。まだ、これからより改善していきたい。	利用者一人ひとりと話す機会を大切にし、会話の中、言葉や表情・仕草から、思いや意向の把握に努めている。家族からの情報も聞き取り、利用者本位で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の書類調査、聞き取り調査、入居後の利用者本人からの聞き取り、ご家族との会話のなかからの聞き取り等で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録やアセスメントシートの活用により把握に努めている。出来ないと思いきまず常に、挑戦していただき出来ることをひとつでも多く見つけられるように注意を払い、できたことを一緒に喜ぶようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしのケアのなかから本人、ご家族の希望や想いを聴きだし、職員一同でカンファレンスを持ち、介護計画に反映させるように取り組んでいる。	介護計画は3ヶ月毎に更新している。更新時にモニタリングを行い、評価した上で、利用者・家族の意向・要望に沿った介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を作成し、一目で一日の様子がすべてわかるようにしている。職員は全員が記入し、就業前には必ず確認している。また、ご家族来訪時には必ず目を通してもらっている。これにより、情報の共有、ケアプランの基礎資料としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の介護記録を作成し、一目で一日の様子がすべてわかるようにしている。職員は全員が記入し、就業前には必ず確認している。また、ご家族来訪時には必ず目を通してもらっている。これにより、情報の共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行政、警察、消防、民生委員に、利用者の許可を取った上で情報提供している。職員が、行政や社協の委員を行っているので日頃から協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームでは全員が当ホームの提携医をかかりつけ医としている。決して強制したわけではなく、各御家族、本人がそれが一番良いと判断しているため。月2回の定期訪問診療及び24時間365日の対応を契約している。また、必要に応じて他の医療機関に受診する場合は、紹介状を作成の上職員が必ず同行している。	協力医は、月2回の往診がある。訪問看護ステーションとの連携により、看護師が週1回、訪問している。どちらも、オンコール対応である。利用者の健康管理・適切な医療支援体制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医のところの訪問看護ステーションと24時間365日対応のオンコール及び必要に応じての来訪、及び週1回の健康チェック、相談業務を契約しており、定期訪問していただいております。お互いによく協働できている。T HP+というタブレット端末で情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携が取れており、極力、入院しなくても済む、もしくは短期入院で済むようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前、来訪時、及び運営推進会議等にて、説明や話し合いをもち、又、順次利用者家族とも、ドクターを交えて終末期に向けた話し合いを行っている。今年度3名看取り。ご家族から感謝された。	重度化・終末期の対応については、医師を交えた話し合いを行い、適切なケアが出来るように取り組んでいる。看取りの実績もあり、医師からの指導の下、職員は、悔いのないケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応等杜取り決めている。また、随時、看護師、医師からレクチャーを受けている。会議時に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署を交えて、避難訓練実施。当該ユニットはスムーズに実施できている。水害避難計画はできているが周囲道路より3Mの高台(50CM以下の予想地域)にある為比較的安全。非常用発電機や非常用ガス、水、食料の保存有。太陽光発電整備した。3月中に10KWの自家発電も整備完了予定。	防災訓練は、消防署立ち合いの下、年2回実施している。地域の被災者の受け入れを想定し、ホーム内はカーペット敷のフロアになっている。また、停電を想定し、非常用発電機や、太陽光発電を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、敬意を払い言葉使い、語調、言葉の内容になれあいになってしまわないよう常に注意合っている。また、プライバシーの保護にも気をつけるよう、職員会議や日々の中で話し合っている。	利用者の尊厳やプライバシーに関しては、職員会議で話し合い、研修・勉強会も開催している。日々の生活の中で、なれ合いな対応にならないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の希望や思いをよく聴き、自己決定や、選択してもらうことを大事にしている。やらせるのではなく、自分ペースで過ごしていただく中で、それに合わせ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定や、選択してもらうことを大事にしている。やらせるのではなく、自分ペースで過ごしていただく中で、それに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方においては、行きつけの理美容院に行く利用者もあるし、ホームの訪問理容を利用している利用者もある。髪型や、長さ、ヘアカラーなど利用者の希望に沿って援助している。また、服装においても選択支を用意して選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好み、状況によって、常に個別にアレンジしている。また、皮むき、とりわけ、片付けなど利用者へ手伝っていただいている。	利用者の嗜好は、アセスメントで把握し、食事の様子からも判断している。食事はホームで調理し、利用者が出ることを手伝っている。季節の行事食や、利用者の誕生日食のリクエストに応え、楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて記入している。体重管理と血液検査を定期的にして、医学的データの結果から栄養や水分バランスを調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの利用者に合わせて、口腔ケアを実施している。優先順位によって、順次提携歯科受診をして行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限り、布パンツ使用を心掛けているが、利用者に行進に合わせて、リハビリ、バットの使用有。であるが、トイレ誘導や、食事の工夫、服薬管理によって、トイレで排泄を心がけている。	排泄については、利用者の状態に合わせて、排泄パターンを把握したうえで、それぞれに支援している。トイレでの排泄を基本とし、歩行や立位保持に難がある利用者に対しては、2名介助としている。夜間もトイレ誘導を行い、安全を優先した支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、おやつに寒天や果物、牛乳等を使い個々に応じて取り組んでいる。医療と連携して服薬コントロールも随時している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に一人週3回実施している。自立見守り～全介助の方まで個々にあった入浴を実施。介助浴もあるので、介護度の重い方でも安心して湯船につかれるようにしている。	入浴は週3回の入浴を支援している。機械浴を設置し、利用者の状態に合わせた入浴支援を可能にしている。介護度の高い利用者でも、湯船に浸かることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食の時間を基本7時にしている。リズムを作る必要がある利用者が増えてきており誘導している。体調の変化に対しても気をつけ、1時間～2時間ずらす方もある。日中は、太陽の光を浴びリセットできるようにしている。点でなく線で生活リズムを見ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員分ファイリングしており、全職員が見て覚えるよう指示している。それによって、連絡ノートで変更や注意点が指示され全職員が意識できるようにしている。また、訪問薬局の為、都度薬剤師から説明と状況の摺合せをしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やらされるのではなく、本人が自発的にやれることを個別対応の中で、ひとりひとりにあったものを見つけられるように常に試行錯誤している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に、希望にあわせて、ただの散歩から、お参りや、買い物、喫茶店など、随時実施している。また、対応できるよう人員を手厚く配置している。	利用者の意向に合わせた、散歩や買い物・喫茶店への外出の支援があったが、コロナ禍により、控えている。最近、ホーム周辺の散歩は再開することができた。コロナ禍の終息が待たれる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者には、各自自由に小額のお金を持ってもらっているが、使用するときはホームのお金を支払ってもらうようにして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が本当に必要な時は、支援している。あまりに頻回な時は、お話をしたり、偽番にかけたりして対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設らしさを極力排し、全面カーペット敷きにして、木製品も多く使い、明るく、温かみのある雰囲気づくりに配慮した。また、季節感が出る花やカレンダーや、置物を置いて、大人の粋を感じられるようしている。また、居間から、本格的な日本庭園が望め季節の移ろいを感じられる。また、利用者が使い易いよう、わかりやすいよう配慮している。	電話でのヒアリングのため視察ができなかった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが広く、居場所が複数ある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが、自分流の部屋になるように本人、家族、ホームでアレンジしてある。また、身体能力に合わせて必要なものを配置して、落ち着いて快適に生活できるようにしている。	電話でのヒアリングのため視察ができなかった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的にバリアフリーになっているが、利用者の状態に合わせて随時改造したり備品を付けたりしている。トイレや部屋にはわかり易いように大きな字で室名を貼っている。また、随時必要に応じて改良している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103792		
法人名	特定非営利活動法人 福祉サポートセンター さわか岐阜みのじ		
事業所名	グループホームガーデン柳津北館 2F ゆずる		
所在地	岐阜県岐阜市柳津町本郷2丁目13番地1		
自己評価作成日	令和 3年 2月24日	評価結果市町村受理日	令和 3年 4月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190103792-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190103792-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和 3年 3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設満4年になるホームです。隣接の18年間実績あるガーデン柳津のエビデンスを活用して、認知症のご利用者様が、その人らしく、穏やかに過ごせるように職員一同頑張っています。入居にあたって、制限や選択をしておりませんので、やや、重度の方や、医療依存度の高い方も入居されております。住環境として、施設らしさを排除しつつ、安全で、快適な心休まる立地、環境、設備を有しています。医療と、薬業、介護、ご家族とを、THPによる密接な連携を行い、日常の健康管理から、看取りまでの対応を可能としています。体力、元気の源である食べることを大切に、楽しみある豊かな食生活を利用者と一緒に構築しています。常勤職員を厚く配置し、かつ、必要に応じパート職員も多く配置してプラスアルファのケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	厚労省の掲げるグループホームの指針の一語一語をよくかみしめ掘り下げ、それを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物等で地域に出かけ交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいサロンなどで、介護教室の講師を行っている。また、地域ケア会議で認知症の対応方法の講師もしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人の事業計画や、経営状況、日々のサービス状況、ホームの方針、医療連携などを話合い理解していただくと共に、意見も頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	県内事業所の協議会役員でもあることから、市の委員等も務めており日々交流をもっている。当該事業所は、岐阜市で10年ぶりの新設事業所として5事業者の中から開設助成選定されたことから連携できている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内玄関のみ簡易な施錠はあるが、現実的には入居者は皆さん開けられるので、事実上日中は無施錠。自由に動かれており、薬物、言葉のロック含め拘束はしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろんのこと、言葉や態度による虐待もないように、日々注意を払っている。職員会議で、勉強会もしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当該ユニットにも、成年後見制度利用者がいらっしや、隣の別館にも日常生活実支援制度利用者がいらっしや、日々の中で学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にホームの方針、できること、できないことを明確にしている。じっくりと時間をかけて話し合いを持っている。また、運営推進会議、家族会議で都度話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほぼ週に1度は来訪されており、その席で話会いをもつようにしている。遠方の方には line で家族に写真を送るなどして、ご意見をいただいている。意見に対しては、職員会議で議論する。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が管理者兼任で、現場の介護に入っており常に話せる環境にある。また、職員会議等でも話合っているが、規模、人数が増えたが、未熟な職員もいるので、より一層気を配っていく必要あり。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員配置数や、勤務時間、希望休の取得など環境整備している。職員配置も多くして負担減にしている。順次資格取得にもバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者講習2名、介護福祉士受験3名、初任者講習1名法人負担にて受講、受験。町付きの会議時や、on the jobトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人代表(管理者兼務)が県グループホーム協議会代表理事をしていることから行政、同業者との交流は多い。短時間パートを除いた職員には名刺を作成し個人交流もすすめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面談をご本人としている。また、ホームにも入居前に御本人に来ていただき雰囲気を感じてもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の状況をよく聴き、必ず複数のグループホームを見学していただき、当ホームを理解、納得されるまでじっくりと話し合い、ご家族との信頼関係を築くようにしている。(利用申し込み前に2時間程度必ず時間をとっている)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず、お話を伺い、グループホームなのか他のサービスが必要なかを一緒に考えて本当に必要なサービス提供になるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	運営規定にもあるように、有する能力に応じてできる限り自立した生活が送れるように支援している。また、選択することをできる限りしていただいている。グループホームというコミュニティで利用者間の相互互助という精神を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、面会ができなかったですが、lineによるオンライン面会や、日々の様子をline動画や写真で送り説明している。医療情報もthpアプリを使い共有し家族からの意見ももらっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、全くできていない		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、会話を振ったりつなげたり、依頼したりして利用者同士のかかわりを持てるように支援している。また、必要に応じて、席替えをするなどして、利用者同士が相互互助の関係になれるように目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例は少ないですが、手続きや、情報提供、退去時の荷物搬送等、お手伝いしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1でゆっくりとお話を聴いたり、会話の中にそれとなく混ぜ込み希望や想いの把握につとめている。また、ご家族からも過去の生活史を聞き取り、あくまでも本人の視点に立ち職員で考えてケアにあたっている。また、ご家族にも、それを伝えて一緒に考えている。まだ、これからより改善していきたい。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の書類調査、聞き取り調査、入居後の利用者本人からの聞き取り、ご家族との会話のなかからの聞き取り等で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録やアセスメントシートの活用により把握に努めている。出来ないと思いきまず常に、挑戦していたき出来ることをひとつでも多く見つけられるように注意を払い、できたことを一緒に喜ぶようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしのケアのなかから本人、ご家族の希望や想いを聴きだし、職員一同でカンファレンスを持ち、介護計画に反映させるように取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を作成し、一目で一日の様子がすべてわかるようにしている。職員は全員が記入し、就業前には必ず確認している。また、ご家族来訪時には必ず目を通してもらっている。これにより、情報の共有、ケアプランの基礎資料としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の介護記録を作成し、一目で一日の様子がすべてわかるようにしている。職員は全員が記入し、就業前には必ず確認している。また、ご家族来訪時には必ず目を通してもらっている。これにより、情報の共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行政、警察、消防、民生委員に、利用者の許可を取った上で情報提供している。職員が、行政や社協の委員を行っているので日頃から協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームでは全員が当ホームの提携医をかかりつけ医としている。決して強制したわけではなく、各御家族、本人がそれが一番良いと判断しているため。月2回の定期訪問診療及び24時間365日の対応を契約している。また、必要に応じて他の医療機関に受診する場合は、紹介状を作成の上職員が必ず同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医のところの訪問看護ステーションと24時間365日対応のオンコール及び必要に応じての来訪、及び週1回の健康チェック、相談業務を契約しており、定期訪問していただいております。お互いによく協働できている。T HP+というタブレット端末で情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携が取れており、極力、入院しなくても済む、もしくは短期入院で済むようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前、来訪時、及び運営推進会議等にて、説明や、話し合いをもち、又、順次利用者家族とも、ドクターを交えて終末期に向けた話し合いを行っている。今年度3名看取り。ご家族から感謝された。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応等取り決めている。また、随時、看護師、医師からレクチャーを受けている。会議時に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署を交えて、避難訓練実施。当該ユニットはスムーズに実施できている。水害避難計画はできているが周囲道路より3Mの高台(50CM以下の予想地域)にある為比較的安全。非常用発電機や非常用ガス、水、食料の保存有。太陽光発電整備した。3月中に10KWの自家発電も整備完了予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、敬意を払い言葉使い、語調、言葉の内容になれあいになってしまわないよう常に注意し合っている。また、プライバシーの保護にも気をつけるよう、職員会議や日々の中で話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の希望や思いをよく聴き、自己決定や、選択してもらうことを大事にしている。やらせるのではなく、自分ペースで過ごしていただく中で、それに合わせ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定や、選択してもらうことを大事にしている。やらせるのではなく、自分ペースで過ごしていただく中で、それに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方においては、行きつけの理美容院に行く利用者もあるし、ホームの訪問理容を利用している利用者もある。髪型や、長さ、ヘアカラーなど利用者の希望に沿って援助している。また、服装においても選択支を用意して選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好み、状況によって、常に個別にアレンジしている。また、皮むき、とりわけ、片付けなど利用者を手伝っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて記入している。体重管理と血液検査を定期的にして、医学的データの結果から栄養や水分バランスを調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの利用者に合わせて、口腔ケアを実施している。優先順位によって、順次提携歯科受診をして行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限り、布パンツ使用を心掛けているが、利用者に進行に合わせて、リハパン、パットの使用有。であるが、トイレ誘導や、食事の工夫、服薬管理によって、トイレで排泄を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、おやつに寒天や果物、牛乳等を使い個々に応じて取り組んでいる。医療と連携して服薬コントロールも随時している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に一人週3回実施している。自立見守り～全介助の方まで個々にあった入浴を実施。介助浴もあるので、介護度の重い方でも安心して湯船につかれるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食の時間を基本7時にしている。リズムを作る必要がある利用者が増えてきており誘導している。体調の変化に対しても気をつけ、1時間～2時間ずらす方もある。日中は、太陽の光を浴びリセットできるようにしている。点でなく線で生活リズムを見ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員分ファイリングしてあり、全職員が見て覚えるよう指示している。それによって、連絡ノートで変更や注意点が指示され全職員が意識できるようにしている。また、訪問薬局の為、都度薬剤師から説明と状況の摺合せをしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やらされるのではなく、本人が自発的にやれることを個別対応の中で、ひとりひとりにあったものを見つけられるように常に試行錯誤している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に、希望にあわせて、ただの散歩から、お参りや、買い物、喫茶店など、随時実施している。また、対応できるように人員を手厚く配置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者には、各自自由に小額のお金を持ってもらっているが、使用するときはホームのお金を支払ってもらうようにして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が本当に必要な時は、支援している。また、定期的にオンライン面会してる。あまりに頻回な時は、お話をしたり、偽番にかけたりして対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設らしさを極力排し、全面カーペット敷きにして、木製品も多く使い、明るく、温かみのある雰囲気づくりに配慮した。また、季節感が出る花やカレンダーや、置物を置いて、大人の粋を感じられるようしている。また、居間から、本格的な日本庭園が望め季節の移ろいを感じられる。また、利用者が使い易いよう、わかりやすいよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが広く、居場所が複数ある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが、自分流の部屋になるように本人、家族、ホームでアレンジしてある。また、身体能力に合わせて必要なものを配置して、落ち着いて快適に生活できるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的にバリアフリーになっているが、利用者の状態に合わせて随時改造したり備品を付けたりしている。トイレや部屋にはわかり易いように大きな字で室名を貼っている。また、随時必要に応じて改良している。		